



オリオン大星雲を見つけよう



星空情報2つ目は、今の時期によく見えるオリオン大星雲（M42）を見ようです。日の入りから2時間が過ぎ、天文薄明が終わった頃に、南の空には冬の星座がたくさん見えています。多くの明るい星がある中に、2つの1等星が形作るややひしゃげた長方形と、その中心にほぼ等間隔で並ぶ3つの2等星を見つけることができます。オリオン座です。中心の3つの星は「三つ星（みつぼし）」と呼ばれています。

月のない夜に街明かりの少ない場所で観察すると、三つ星の下に、三つ星よりもさらに暗い星が3つ縦に並んでいるのが見えます。こちらは「小三つ星」と呼ばれています。小三つ星の真ん中の星をよく見ると、他の星のように点状ではなく、なんだかぼんやりとにじんだ感じに見えませんか？実はこれが「オリオン大星雲（M42）」と呼ばれる、巨大なガスの集まりなのです。2月は、日の入り後2時間ほど過ぎ、夜空が完全に暗くなる頃にオリオン座が南の高い位置に見えるため、オリオン大星雲を観察しやすい時期になります。肉眼では小さな雲のように見えるだけですが、望遠鏡や双眼鏡で見ると、蝶や鳥が羽を広げたような複雑な形をしていることが分かります。

星雲を形作っている星たちである「恒星」は、宇宙空間に漂うガスが巨大な重力で集まって誕生しました。オリオン座のこのあたりには、目には見えませんが、恒星のもとになるガスの塊がたくさんあります。オリオン座にあるたくさんの青白い恒星たちは、これらのガスから生まれたと考えられています。オリオン大星雲はガスがひととき濃い部分で、その中では、現在も恒星が誕生し続けています。誕生したばかりの恒星の光が周囲のガスを光らせてあのような複雑な形を作り出しているのです。恒星は、みかけの大きさがとても小さく、人の一生よりもはるかに長い時間をかけて誕生します。そのため、残念ながら恒星が誕生する瞬間を肉眼で見ることはできません。しかし、その中で起きていることを想像しながら自らの目でオリオン大星雲を見るとなんだか楽しくなりませんか。

